

みんなで守るあなたのまち

今年一月、「くまもと犯罪の起きにくいまちづくり県民会議」を設立。三月には、県老人クラブ連合会と県、県警察本部、県教育庁が全国で初めて四者による「子どもの安全確保に関する協定」を結ぶなど、行政、民間、地域活動団体などが一体となり、地域を守る取り組みを進めています。

子どもたちによる地域安全マップづくり

県民会議では、熊本市立帯山小学校と城南町立隈庄(くまのしょう)小学校をモデル校に指定し、子どもが中心となって活動する「地域安全マップづくり」を行うなど、犯罪の起きにくいまちづくりを進める取り組みを行っています。



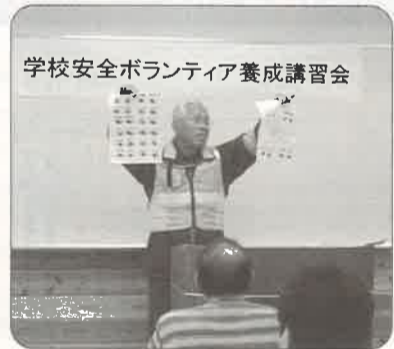
地域安全マップは、「犯罪が起きやすい場所」に着目した地図で、子どもたち自身が地域に潜む危険性を発見するという「気づき」の過程を重視するものです。

子どもたちは、通学路などを歩き、「入りやすく、見えにくい場所」を探して、地図を作ります。



安心して教育を受けられる環境づくり

県教育庁では、子どもの見守り活動を行う「学校安全ボランティア」を養成しています。また、警察官OBなどの「地域学校安全指導員」(335人)が県内全小学校を対象に、登下校中の通学路の巡回や学校敷地内の警備を行っています。



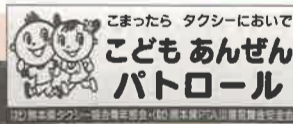
子ども110番のくるま

タクシーや商業車両など約8,000台の車が子どもたちを見守っています。



子ども110番の家

登下校時などの緊急避難先として、民家や商店、郵便局など県内に約33,000カ所あります。助けを求めてきた子どもたちを保護し警察へ通報します。



セーフティステーション活動



熊本県コンビニエンストア等防犯協会のコンビニ(10チェーン約500店舗)では、犯罪や事故、災害による急病人への対応や、子どもが助けを求めてきた時に警察への通報などを行います。